

情報を確かに取り出し、 自分のことばで表現する説明的文章の授業

山口大学教育学部附属光小学校 井原 哲典

一 情報を読む

低学年の子どもにとって、教科書の説明文は、新たな知識を得ることのできる情報が詰まっている。しかし、大体の情報がわかると、子どもは満足し、文章から遠ざかってしまう。また、国語科の授業では、新たな知識を得るためだけに読んでいく訳にはいかない。低学年では、必要な情報を確かに取り出し、表現に拓いていきたい。そのポイントとなるのが、次の二つである。

○ 子どもが「読み誤りそうな情報」や「読みの浅い情報」についての発問

一読では、情報をつかみにくい部分がある。例えば、順序が複雑である部分や、情報不足である部分などである。授業では、そのような文章に、子どもを向かわせ、確かに情報を取り出させたい。

○ 取り出した情報の再表現

説明文の授業では、取り出した情報を加工し、自分の言葉で表現できるようにさせたい。表現に至ってこそ、情報が読めたと言える。例えば、低学年では、「文章に登場するものの立場に立って、表現する活動」、高学年では、「筆者の立場に立って、書き換えたり、書き加えたりする活動」が考えられる。

二 単元について

1 単元名

「読んでわかったことを知らせ合おう」
（「どんぐりとどうぶつたち」（日本文教出版 二年下））

2 単元の目標

(1) 文章から読み取ったことをもとに、みずならの木や動物になりきって、進んで表現できるようにする。

(2) みずならの木と動物たちの共生の様子

を、叙述に即して読み取ることができるようにする。

3 単元計画（約五時間）

第一次 全文を通読し、驚いたことや不思議

なことを書く……①

第二次 みずならの木と動物たちの共生の様

子を読み取る……②

第三次 動物たちに手紙を書く……③

三 授業の実際

第二次三時では、次のような結論部から本論部の情報を読ませようとした。

このように、みずならの木は、どうぶつたちに、どんぐりという、たいせつな食べものをあたえます。そのかわり、りすやねずみなどのどうぶつたちは、知らないうちに、どんぐりを木にそだてる手つだいをしているのです。

本論部は、地面や土の中にあつたどんぐりの行方が具体的に説明してある。しかし、結論部にある、「手つだい」の内実については、直接的に書かれてない。そこで、子どもは、「手

つだい」について、とらえきれていないのではないかと考え、次のように問いかけた。

- T りすやねずみなどの動物たちは、どのように「どんぐりを木にそだてる手つだい」をしているかな。
- C どんぐりを土の中に埋めているよ。
- T どこに書いてあるの。
- C 十一段落に書いてあるよ。でも、ほとんど食べられるけどね。
- T それは、手伝いかな。
- C 食べたら、木にはならないから、手伝いではないね。
- C 食べ残して、「そのままのこったもの」が、木になるよ。
- C ぼくも、そうだと思うよ。
- C あと、隠した所がわからなくなった
- T どんぐりも、木になるよ。
- T 土の中のどんぐりは、全部木になるのかな。
- C 全部ではない。芽が出ないのものもある。
- T どこに書いてあるの。
- C 十二段落に「土のふかいところのこったどんぐりは、めが土の上まで出られずに、かれています」と書いてある。だから、土の深い所に残ったどんぐりは、芽が出ないのだよ。

T どこへ行ったどんぐりが木になるのかな。

- C 十三段落に「土のあさいところのこったどんぐりが、めを出しています」と書いてあったよ。
- C 浅い所に、たまたま残ったのだね。
- T それは、手伝いと言えるのかな。
- C たまたまでも、どんぐりを浅い所に埋めたのだから、手伝いと言えるよ。
- C わたしも、ちゃんと埋めているから、手伝いだと思う。

こんなやり取りの中で、教師はどんぐりの行方と、どうなったかということを書きで整理した。そして、浅い所に残ったどんぐりが木になることを確かめ、次のように問うた。

- T みずならの木は、動物たちに何か言いたいことはないかな。
- C 「どんぐりを木に育てる手つだいをしてくれ、ありがとう」と言いたいよ。
- C きつと「ありがとう」と言いたいよね。
- C でも、動物たちもどんぐりを食べているから「ありがとう」と思っている。

次に、教師がりす役、子どもがみずならの木役になって対話劇を行った。それを参考に、

次のような対話劇のシナリオを作った。

- 木 どんぐりを土のあさいところに向けてくれて、ありがとう。
- りす えっ。ぼく、食べちゃったよ。
- 木 じつはね、食べてなかったどんぐりがあったんだよ。
- りす へえ、そうなんだ。知らなかった。
- 木 おかげで、なか間がふえたよ。
- りす いえいえ。ぼくたちも、みずならさんのどんぐりを食べているよ。こちらこそ、ありがとう。

四 成果と今後の課題

読み取りにくい情報について問うことで、子どもは文章に向かっていた。今後、表現するために、子どもが文章に向かい、情報を取り出していくような実践を工夫したい。

〔参考文献〕

長崎伸仁『新しく拓く説明的文章の授業』明治図書、一九九七年

いはら あきのり 山口大学教育学部附属光小学校教諭。最近の研究テーマは「読むことの学習における表現活動の工夫」であり、実践的研究を進めている。